事業紹介

■安全·安定輸送の提供
安全に関する取り組み……25・26
お客さまの安全を守る設備……27～32
列車の安全を支える設備……33～39
連続立体交差事業……40
駅舎改良とバリアフリー推進…41～45
設備投資……46
■質の高いサービスの提供
ニーズに合わせたダイヤ……47・48
サービスに関する設備……49・50
サービス向上への取り組み……51～54
沿線価値の創造……55～60
地球環境への配慮……61～66

安全に関する取り組み

常に「安全」を基本に、すべての事業を推進しています。

各管理者、関係部長の責務を明確に規定

安全管理体制

「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理体制を構築して運用しています。「安全統括管理者」ならびに「運転管理者」「電気施設管理者」「工務施設管理者」「建設施設管理者」「車両管理者」「乗務員指導管理者」および関係部長の責務を明確に規定し、これに基づいておのおのが輸送の安全確保のための役割を担っています。（下図参照）

安全方針・スローガン

地域・社会の発展や環境の保全に貢献し、安全で安定した輸送と快適なサービスを提供すべく、誠実に事業に取り組みます。

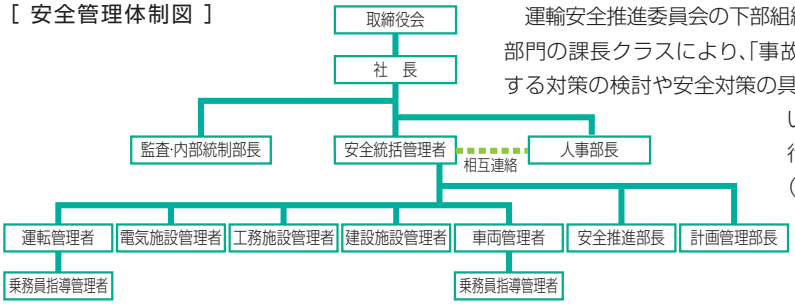
■ 安全方針

1.常に一人ひとりが安全最優先意識を持って、事業・サービスを推進します。
2.常に法令・規則を守り、誠実に職務を遂行します。
3.常にコミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境を構築します。
4.常に安全管理体制をチェックし、その向上に努めます。

■ 安全スローガン

『責任事故・インシデント「0（ゼロ）」』

［ 安全管理体制図 ］



事故防止のためのさまざまな対策

主な安全管理活動

［経営層による安全巡視および意見交換会の実施］

夏季および年末年始輸送の安全確保総点検期間中を中心に、社長をはじめとする役員が現場を巡視して安全管理の状況を確認するとともに、現業社員との意見交換会を実施してコミュニケーションを図っています。

意見交換会

安全に関する各種会議の開催

■ 運輸安全推進委員会

社長・安全統括管理者および、安全管理規程に責務が規定された各管理者・関係部長により構成されている会議です。輸送の安全を確保するための方針・重点施策のほか、事故情報、現業社員から報告された「事故の芽情報」をもとに、さまざまな対策や安全性の向上に関する事項について審議しています。（月１回）

■ 運輸安全推進部会

運輸安全推進委員会の下部組織で、安全統括管理者をトップに関係する部の部長クラスが中心となり、「事故の芽情報」に関する確認・調整や専門事項についての調整・研究を行っています。（月1回）

■ 鉄道安全幹事会

運輸安全推進委員会の下部組織で、関係する各部門の課長クラスにより、「事故の芽情報」に関する対策の検討や安全対策の具体的な内容について調査・研究を行っています。（月1回）

異常時に備えた体制整備および各種訓練

鉄道事故、自然災害、テロ、その他さまざまな非常事態に備え、「西武グループ危機管理規程」「災害対策規程」「鉄道事故処理要領」「鉄道テロ対策における行動基準」など規程類のほか、BCP（事業継続計画）を策定し、緊急時の対応体制を確立しています。

また、脱線、踏切事故、大震災、鉄道テロなどを想定した実践的な訓練を定期的に実施し、万一の際に備えています。

総合復旧訓練

「事故の芽情報」の収集・活用

「輸送の安全に支障を及ぼす恐れのある事柄」「事故には至っていないが、事故につながる可能性がある（あった）」と社員各個人が感じた「ヒヤリ・ハット事象」や「気がかり事象」に関する情報を幅広く収集しています。

その後、分析・評価を行ったうえで、内容やリスクの大きさに応じて対策を講じ、事故を未然に防ぐという取り組みを行っています。報告された案件について順次対策を講じるとともに、現場にフィードバックすることで情報の共有化を図り、安全性の向上に役立てています。

事故の芽情報の流れ

- 事故の芽ポストへの投函 / メールによる投稿
- 現業での対策記入 / 安全推進部で受付
- 各部で調査を行い、部としての対応を記入
- 安全推進部で集計・分析
- 鉄道安全幹事会で審議
- 運輸安全推進部会で審議
- 運輸安全推進委員会で審議
- フィードバック

過去の事故事例の教育

当社では、1986年3月23日の降雪時に、田無駅に停車していた列車に、後続の列車が停止できずに追突するという事故を起こし、多数の負傷者を出しました。これを受け、この事故の概要や当社および他社の事故事例を、写真や映像を用いて社員に安全教育するための「事故情報展示室」を2008年度に開設し、「安全最優先」の大切さを学んでいます。

併せて「安全輸送推進週間」を設定し、輸送の安全講演会などを行っています。

事故情報展示室

展示品

安全対策の全般を告知

「安全・環境報告書」の公表

鉄道事業法の規定に基づき、安全に関する基本方針と目標、事故・障害の発生状況と再発防止策、安全確保のための取り組み、安全管理体制など、当社の安全対策全般をお客さまにお知らせすることを目的とし「安全・環境報告書」をWebサイトで公表しています。

https://www.seiburailway.jp/company/report/

お客さまの安全を守る設備

ホーム

ホーム上の危険を運転士に通報
列車非常通報装置

ホーム上で、お客さまや列車運行への危険がある場合、列車の運転士に知らせる装置です。非常停止ボタンを押すと、ランプが点滅しブザーが鳴動します。防護無線や非常灯により運転士に危険を知らせます。

非常停止ボタン

非常灯

乗降時の死角を無くして安全を確認
乗降監視用テレビ（ＩＴＶ）

列車の長編成化により、列車の前部や曲線ホームなどお客さまの乗降状態が車掌から確認しづらい場所（83駅）に、補助手段としてカメラおよびモニターを設置しています。

列車の接近を知らせる回転灯と警報音
列車進入警報装置

列車が駅に接近すると、線路脇に取り付けられた黄色回転灯が点灯し、同時に警報音で列車の進入を知らせます。

ワンマン運転を行っている路線に導入
画像監視装置

多摩川線および多摩湖線のワンマン運転区間に導入しています。ホームに設置した監視カメラ画像を、多摩川線は白糸台駅、多摩湖線は国分寺駅へ伝送し、集中監視しています。

異常時には列車非常通報装置を遠隔作動させ、運転士に危険を知らせます。

監視画面

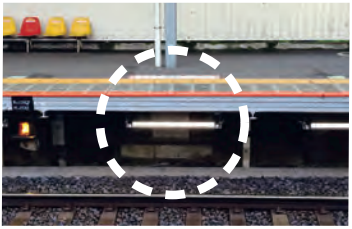
操作盤

ホームの安全性向上

ホームの安全を確保する各種設備

■ 足元注意喚起灯・音声転落防止装置

光や音声により、足元への注意を促す装置を設置し、ホーム下への転落防止を図っています。



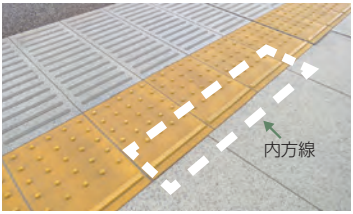
足元注意喚起灯

■ 転落防止ゴム

列車とホームの隙間が広い駅の一部に、くし型状のゴムを設置し、隙間を狭めることで転落防止を図っています。

■ 内方線付き・JIS規格適合の点状ブロックの整備

目の不自由な方に対しホームの内側が分かるよう、内側に内方線がある点状ブロックを整備しています。



■ ホーム隙間転落検知システムの導入

曲線ホームにおいて列車とホームの隙間に転落したお客さまを検知する装置を、新井薬師前駅1番ホーム・萩山駅3番ホーム・稲荷山公園駅1番ホームの3駅に設置しています。

もしもの際に命を守る待避スペース

ホーム下避難場所

お客さまが線路上に転落し、列車が接近している場合に安全を確保するためのスペースです。避難場所には、分かりやすくオレンジ色のマーキングを施しています。75駅179ホームに設けています。

お客さまの安全を守る設備

踏切

さらなる踏切の減少を目指して

踏切設備

踏切の自動化や立体交差化を進めてきた結果、踏切事故が著しく減少しています。

現在踏切数は340ヵ所です。今後も安全輸送のため、踏切の除却を図っていきます。

異常を知らせるとともに、危険を察知する装置

踏切支障報知装置・支障検知装置

踏切道に支障が発生した際、列車に停止信号を現示する装置で、次のもので構成されています。

■ 特殊信号発光機

5つの赤色灯が2灯ずつ循環明滅する特殊信号発光機で、列車へ踏切の異常を知らせます。

■ 踏切支障報知装置（非常ボタン）

踏切際の非常ボタンを押すと、特殊信号発光機が動作し、列車に踏切の異常を知らせます。全踏切に設置しています。

■ 踏切支障検知装置

踏切に自動車などの支障物がある場合、レーザー光線網などにより支障物を自動検知し、特殊信号発光機を動作させます。現在、234踏切に設置しています。そのうち、50踏切に検知能力の高い支障検知装置を設置しています。

■ 踏切異常検知システム

踏切の更なる安全性向上を目的に、踏切監視カメラ画像をAI処理する「踏切滞留AI 監視システム」（3踏切）と、左右2つのレンズを内蔵した3Dカメラによる「3D画像解析踏切監視システム」（2踏切）を2022年から導入しています。

警報時間の均一化と誤通過防止のために

列車情報装置（急緩行列車選別装置）

踏切の警報時間の均一化および中間駅での列車誤通過防止対策として、列車種別選別方式による列車情報装置を設けています。

この装置は、運行管理システム（SEMTRAC）のダイヤ情報に基づき、列車種別に応じて踏切の警報開始地点を自動的に変えることができる装置です。

また、列車種別により、通過駅・停車駅を判別し、停車駅へ接近した際、運転士へ停車を知らせる機能も有しています。

お客さまの安全を守る設備

車両設備

車内で異常があった場合の通報手段

車内非常通報装置

車内での異常発生を乗務員に知らせる装置で、各車両に2･3ヵ所設置しています（一部の車両を除く）。また、一部の車両では、乗務員と直接通話もできます。

なお、車内の設置場所をより分かりやすくするために、装置本体と付近には「SOSシール」を貼付し、目立つようにしています。

衝撃や脱線などを防ぐ

前面下部覆い

車両の前面下部をカバーする部分のことで、スカートとも呼ばれています。障害物の巻き込み防止のほか、床下機器の損傷防止、衝撃を和らげ脱線を防ぐ役割があります。

転落事故を未然に防ぐ

車両連結部分の外幌（そとほろ）

車両連結部分に設けたゴム製のホロのことで、ホームを移動されるお客さまの連結部分への転落事故を未然に防ぐためのものです。

音声による案内放送

連結部転落防止放送装置

運転室付きの車両同士を連結する際、連結部分に外幌を設置できず、連結部分に大きな隙間が生じます。このような場合にお客さまが転落する事故を防止するために、案内放送が流れる装置を一部の運転室付き車両に設置しています。列車の中間部に運転室付き車両があり、停車中にドアを開けている際に音声が流れます。

お客さまの安全を守る設備

自然災害対策

駅舎や高架橋の耐震性を高める

耐震補強

駅舎や高架橋の耐震性を高めるため、耐震補強の工事を進めています。

秩父高架橋

初期微動をキャッチして、安全を確保

早期地震警報システム

気象庁の緊急地震速報を活用したシステムです。地震が発生した場合、初期微動（P波）を解析し、大きな揺れとなる主要動（S波）の到達前に列車に音声を送り、乗務員が手動で列車を非常停止させます。

震度4以上の地震発生情報を受信した場合は、全列車を直ちに停止させ安全を確保します。

地震表示盤

二次災害を最小限にくい止めるために

地震計

当社線を大きく4つに分割し、それぞれのエリアに地震計を設置しています。

震度4～5弱では列車を一旦停止後、通常より速度を落とした注意運転を行い、安全を確認してから正常運転に戻します。震度5強以上では全列車を停止させ、全線の安全が確認でき次第、運転を再開します。

橋りょうなど、全線で13ヵ所に設置

風速計

全線で13ヵ所に設置しています。主な跨線橋、橋りょう、架道橋上に設けており、計測した風速は隣接駅と運転司令で表示されます。

風速が秒速20m超では時速55km以下、秒速25m超では時速25km以下の注意運転、風速が秒速30m以上では列車の運転を一時中止します。

安全のため、降雨量を自動的に記録

雨量計

受水部（雨量ます）と記録部（記録計）からなり、降雨状況を観測室内で自動記録、同時に運転司令へ伝送されます。

全線で15ヵ所に設置しており、特に山間部の武蔵丘信号場～西武秩父駅間では降雨が毎時30mmに達したときは時速35km以下で運転、降雨が毎時50mmまたは継続降雨量が250mmに達したときは列車の運転を一時中止します。

土砂崩壊や落石の危険個所を検知

土砂崩壊検知装置

山間部の土砂崩壊や落石の危険のある切り通しに設置。センサーを取り付けた検知柵と金網で異常を検知します。池袋線6ヵ所、西武秩父線22ヵ所に設けており、運転司令では常に動作の有無を監視しています。

安全・安定輸送のため、線路の状態を把握

レール温度監視システム

常にレール温度を監視し、レール温度が45℃以上に達したときは注意、50℃以上に達したときは警戒とし、安全・安定輸送のため線路状態を把握しています。

通常の運行にかかわる分岐器に100%設置

電気融雪器

電熱ヒーターにより、降雪による分岐器の転換不能を防ぎます。駅構内および車庫線など約700ヵ所に整備されており、通常の運行にかかわる分岐器には100%設置しています。

積雪状況を常時確認

監視カメラの設置

降雪時の列車運行の安全を確保するため、積雪量の多い西武秩父線に監視カメラを4ヵ所設置し、常に積雪状況を確認しています。

土砂崩壊を防止

法面（のりめん）の改良

列車運行の安全確保のため、線路脇の法面を改良することで斜面の安定化を図り、土砂崩壊を防止して安全性を向上させています。

芦ヶ久保駅

列車の安全を支える設備

運行管理体制・設備

"万一"に備え「情報の共有化」を重視した体制

司　令

全線で約176kmある線路のどこで何が起きているかを迅速に把握するには、設備はもとより、機能的な組織体制が重要です。

その意味からも、当社では「運転」「電気」「施設」「車両」「情報」の5つの司令が常に「情報の共有」を図りながら、最も大切な「安全確保」という共通目的を遂行しています。この体制のもと、たとえ災害が発生したときでも最良の形で復旧を目指し、お客さまへのご迷惑を最小限にとどめるよう努めています。

信頼性の高いさまざまな装置を導入

信号保安設備

信号保安設備とは、列車を安全・正確・迅速に運転するための設備です。列車速度の高速化、本数の増大、種別の多様化に伴い、当社ではATS・ATC・CTCなどを導入しています。

■ ATS［Automatic Train Stop］

ATSは自動列車停止装置の略称です。乗務員が万が一運転を誤り、列車の速度が速くなり過ぎたとき、列車を止めて安全を保ちます。

■ ATC［Automatic Train Control］

ATCは自動列車制御装置の略称で、西武有楽町線に導入されています。先行列車の位置および進路の条件に応じ、列車の速度を自動的に制御します。

■ CTC［Centralized Traffic Control］

CTCは列車集中制御装置の略称で、多摩川線の武蔵境～是政駅間に導入しています。白糸台駅多摩川線運転司令所の中央操作卓で信号操作を集中制御しています。

質の高い列車運行ときめ細かな情報提供

運行管理システム（SEMTRAC）

運行表示盤

運行管理システム=セムトラック（SEIBU MULTIPLE TRAFFIC CONTROL SYSTEM）は、コンピューター制御により、運転司令業務の迅速性、確実性を向上させ高品質の列車運行を確保するとともに、駅における信号取り扱いの自動化、旅客サービスのためのきめ細かい行先案内表示や放送制御を行います。

司令所に池袋線系と新宿線系の中央制御装置、主要駅には駅制御装置を設置した分散制御方式とし、中央制御装置は基本ダイヤの管理や運転整理などのように複数駅にかかわるものを制御しています。駅制御装置は、進路の制御など各駅の条件に属するものを制御しています。

導入線区は、池袋線系（池袋線、西武有楽町線、豊島線、西武秩父線、狭山線）=84.6km、新宿線系（新宿線、西武園線、拝島線、国分寺線、多摩湖線）=81.2kmです。

なお、機器集約を図った新たなシステムを導入するための更新工事を進めており、2023年度は池袋線系で先行導入します。

※2023年8月1日現在

列車の安全を支える設備

保守管理体制・設備

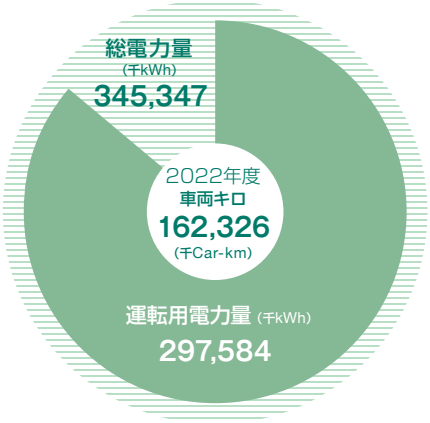
電車運行のためのエネルギー

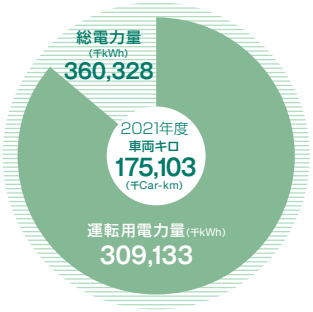
鉄道用電力

鉄道で使う電力は、電車を動かす「運転用電力」と、駅の照明や信号機などに使う「付帯用電力」に大別されます。

「運転用」は直流1,500Vまたは750Vで電車に、「付帯用」は交流6,600Vで信号機などに供給しています。

電力消費量は、年間3億4,535万kWhで、一般家庭8万世帯の使用量に匹敵します。全消費量のうち「運転用」が86%、「付帯用」が14%です。





電気設備系統を24時間監視し、集中管理

電力管理システム

電力管理システムは、系統の状態と異常を感知する系統監視機能、故障の種類を選別し機器を自動的に投入する故障処理機能、変電所機器の「運転」「停止」を自動制御するスケジュール運転機能などを備えています。

電線や電柱、電灯動力の負荷設備など

電路設備

線路上の電線、これを支える電柱などの支持物および電灯・動力の負荷設備が電路設備です。

■ 電線

池袋線・新宿線の高圧線は、ケーブル使用回線と被覆線使用回線の二重系となっており、異常時でも、どちらかの電源を供給する仕組みになっています。

■ 支持物

コンクリート柱、鉄柱、鋼管柱があります。

■ 電灯・動力設備

主なものに駅の照明設備および昇降機などのための動力設備があります。また、電気融雪器や踏切事故防止用の照明灯などもあります。

特別高圧の電力を鉄道用に変換

変電所

変電所では、電力会社から送られてくる特別高圧の電力を鉄道用電力に変換しています。現在の変電所数は34ヵ所あり、電車や駅などさまざまな設備に電力を供給しています。

列車の安全を支える設備

保守管理体制・設備

鉄道の電気を守るさまざまな設備

電力設備の保守効率化

■ 高圧設備

駅構内にキュービクル（地上変電設備）を設置し、駅間などに点在していた柱上変圧器を集中化しています。複数の変圧器を地上にまとめることで、保守の安全性と効率性が高まりました。

■ き電設備

練馬～練馬高野台駅間および石神井公園～大泉学園駅間の高架区間に、き電ちょう架式架線を導入しています。従来と異なり、き電線とちょう架線が一体構造のため、景観性にも優れます。また、軌陸作業車から電車線と同時に点検できるため、作業効率が大きく向上しました。

き電設備

■ 電車線設備

電車線に適切な張力を与えるバランサ装置にバネ式を導入しています。従来のタイプと異なり、滑車のワイヤーや重錘（重り）の点検が不要のため、大幅な保守の省力化になりました。

■ 作業用車両

軌陸作業車により保守作業を行っています。道路と線路を走行できる特殊な車両で、線路沿いの電力設備を効率よく保守できます。

軌陸作業車

■ 変電所設備

変電所設備の老朽取替時には、密閉型の受電設備を導入しています。特別高圧電路の露出部分がないため汚損、劣化がなく、保守作業の効率化が図れます。

■ 変電所監視カメラ・保全データシステム

無人変電所に監視カメラを設置し、構内や機器の状態などを電気司令や保守区で監視しています。また、機器類のデータを保守区に電送し、管理するシステムを導入しています。規定の巡回時以外は、係員が現地に出向くことなく状況やデータを確認できるため、保守効率が向上しました。

緊急時に高い信頼性が求められる重要な設備

無線設備

■ 列車無線

運転司令と列車との間で正確かつ迅速な情報伝達を行うための列車無線を、全線・全列車に設置しています。

また、運転士が列車運行の危険を発見した場合、近傍を走るほかの列車に危険を知らせる防護無線を全列車に備えています。さらに、運転司令から全列車への一斉指令、地震発生時の緊急停止警報などの機能もあります。

電波の送受信のためのアンテナには、漏えい同軸ケーブル(LCX)を主に使用し、安定通話を確保しています。LCXは全区間の約70%に架設しています。

■ その他

構内作業を行う駅係員が駅事務室や信号扱所と連絡を取ることができる「駅保守無線」のほか、「構内無線」「乗務員無線」などがあります。

指令、通報、報告のため、各種の鉄道電話を設置

鉄道電話

全線に独自の通信ケーブルを張り巡らせ、各種電話を設置しています。

■ 自動交換電話

本社および全線の各業務部門が、自動電話で結ばれています。

- ●デジタル電子交換機：6局
- ●電話中継線：約2,000回線
- ●電　話　機：約3,000台

■ 専用電話

[指令電話] 走行列車の安全と正確かつ迅速な運転管理を行うため、運転司令と全駅・乗務所および車両所を結ぶ電話です。

[沿線電話] 沿線500m以内ごとに設置した沿線電話機から、司令・駅・電気・工務の各部門に連絡が取れる電話です。

列車の安全を支える設備

保守管理体制・設備

さまざまな部材で構成される線路

線路の構造

線路とは、狭義には、レール・マクラギ・道床・路盤およびこれらに付帯する建造物、保安装置をいいます。広義には、トンネル・橋・法面などの諸施設を含む総称です。

レール

■ 種類

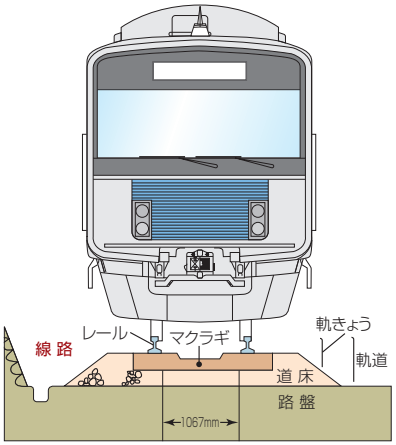
用途、断面形状などにより呼び名も豊富ですが、通常1m当たりの重量で呼びます。本線では、50Nレール・60kgレールを使用しています。

■ ロングレール

1本の長さが200m以上のものをいいます。継ぎ目が少なくなるため、列車の騒音、振動の低減による沿線環境の改善、作業の省力化などの効果があります。

本線長(山口線を除く)329.5kmのうち、2022年度末現在で、急曲線などを除く251.6kmに敷設されています。

■ 構造図



マクラギ

マクラギにはPCマクラギと合成マクラギがあり、本線部のPCマクラギ化は完了しています。耐腐食性に優れる合成マクラギ化は、橋りょう部が完了し、現在は分岐器部について進めています。

■ ラダーマクラギ

特殊な鋼管でマクラギを縦型に連結したもので、形状がはしご(LADDER)に似ていることから、ラダーマクラギと呼ばれます。保守量は従来の横マクラギに比べ1/5以下、また列車の荷重分散性に優れるため騒音、振動の低減効果が得られます。当社では、野方～都立家政駅間、小平～久米川駅間、保谷駅構内でバラスト・ラダーマクラギを敷設しています。

弾性バラスト直結軌道

ラダー軌道

道床

道床は、軌きょう(レール、マクラギ)からの列車荷重を路盤に分散させる役目を果たします。軌道に弾性を持たせて乗り心地を良くしたり、軌道整正の簡便性などが要求されたりし、これらの条件に最も適したものとして「砕石」を用いています。

省力化軌道

軌道整備の大きなウエイトを占める「総つき固め」や「道床交換」などの作業を廃し、軌道保守周期の延伸を図るため、直結軌道をはじめとする省力化軌道の導入を進めています。

軌道の強化

列車通過回数に比例して線路の壊れ方も大きくなります。これを防ぐため、「50Nレール」「PCマクラギ」「砕石道床厚200mm以上」による軌道強化を実施しており、おおむね完了しています。

25ヵ所のトンネルと932ヵ所の橋りょう

施 設

トンネル	■25ヵ所（うち西武秩父線16ヵ所） ■最も長いもの…正丸トンネル 全長4,811.4m、山岳トンネルで私鉄第2位の長さです。トンネル中央部に列車の交換設備があります。
橋りょう	■932ヵ所 ■最も高い橋…第15高麗川橋りょう32.0m ■最も長い橋…入間川橋りょう169.9m

用途に応じて使い分けられる保線機械

保線作業の機械化

1967年から保線機械の導入を図っており、軌道の整正をはじめ保線作業の合理化に大きな効果をあげています。機械による保線作業は深夜に限られ、短時間で精度の高い仕事が要求されるため、専門知識・技能とともに高性能の機械が不可欠です。

当社では下表の通り、用途別の保線機械を保有しています。なかでも総合検測車は、これまで別々に行っていた軌道関係の検測（軌道変位などの検測）と電気関係の検測（架線の高さ・偏位などの検測）を一台で同時に行うことができる検測車で、2006年度に導入しました。

主な保有機械

機 械 名	用 途
マルチプルタイタンパー	道床のつき固め作業
総合検測車	軌道変位、遊間などの検測
ダンプトロリー	工事用砕石などの運搬
砕石運搬車	道床砕石の運搬
軌道モーターカー	トロリー、貨車などのけん引
超音波レール探傷車	レールの欠陥検査
レール削正車	レールの波状摩耗削正など

超音波レール探傷車

マルチプルタイタンパー

総合検測車

列車の安全を支える設備

保守管理体制・設備

6ヵ所の車両基地と1ヵ所の検修場

車両の検査と検修設備

国土交通省の省令に基づき社内で「車両整備実施基準」を定め、6ヵ所の車両基地と1ヵ所の検修場で約1,230両の車両検査を行っています。

■ 車両基地での検査

「定期健康診断」のように、定期的に車両検査や修繕作業などを実施します。また、小手指・南入曽車両基地では、乗り心地や安全に欠かせない車輪削正を行います。

■ 武蔵丘車両検修場での検査

「人間ドック」のように、決められた期間または走行距離により、車両の主要部分を大がかりに分解・点検・修理するなどの定期検査を実施しています。

また、ロボットをはじめとする最新設備を整え作業効率や安全性の向上を図るほか、周囲の自然環境にも十分に配慮しています。2000年12月には国際標準規格「ISO14001」の認証を取得し、「人と環境にやさしい」検修場としてさまざまな取り組みを行っています。

収容能力	検修車両数(2022年度)
36(26)	全般検査142両　重要部検査68両

注:(　)内は検査可能両数

■ 車両保守の効率化

20000系・30000系・40000系・001系車両では、列車情報管理装置での車上検査や機器の動態記録ができるため、省メンテナンスが可能となりました。武蔵丘車両検修場には、各種設備を多数導入し、メンテナンスの効率化を図っています。

武蔵丘車両検修場

連続立体交差事業

交通渋滞の解消、安全性・快適性向上を推進します。

新宿線の立体交差化

新宿線連続立体交差事業

■ 中井～野方駅間（地下化）

東京都・中野区などと協力し、中井～野方駅間の約2.4kmを地下化する事業です。この事業により、中野通りを含む7ヵ所の踏切が除却され、新井薬師前駅、沼袋駅の2駅も地下化されます。これにより、交通渋滞の解消、安全性の向上、まちづくりの促進などが図られます。

2011年8月に都市計画決定され、2013年4月に事業認可を取得、2014年1月から工事に着手しています。

■ 東村山駅付近（高架化）

東京都・東村山市などと協力し、東村山駅を中心とした新宿線、国分寺線、西武園線の合わせて約4.5kmを高架化する事業です。この事業により、府中街道を含む5ヵ所の踏切が除却され、5本の側道が整備されます。また、東村山駅が3面6線から2面4線になることで、新宿線と国分寺線の乗り換えが同一ホームで可能になり、利便性も向上します。

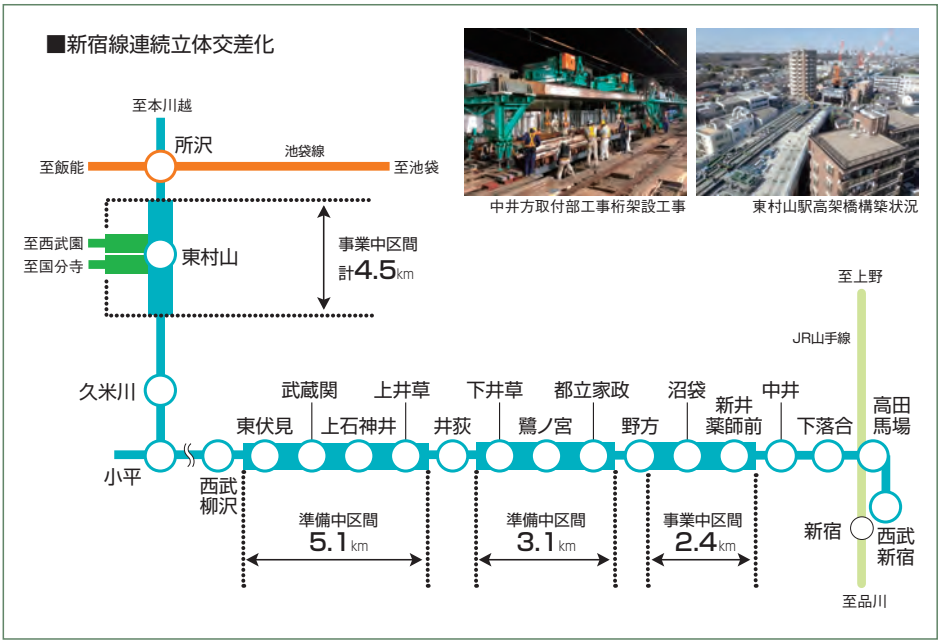
2012年10月に都市計画決定され、2013年12月に事業認可を取得、2015年1月から工事に着手しています。

■ 井荻～西武柳沢駅間および野方～井荻駅間

井荻～西武柳沢駅間は、2021年11月に東京都により高架方式で都市計画決定されました。野方～井荻駅間は、2016年3月に東京都により新規に着工を準備する区間として社会資本総合整備計画に位置付けられました。引き続き、連続立体交差事業の早期事業化に向けて、事業主体である東京都や地元自治体と協力し、新宿線沿線の安全性・快適性向上を推進します。

中井方取付部工事桁架設工事

東村山駅高架橋構築状況



駅舎改良とバリアフリー推進

国・自治体と協力し、駅を中心としたまちづくりを進めています。

新たなまちの顔として、生まれ変わります

駅舎改良事業

■ 飯能駅

フィンランド発祥の『ムーミン』の世界などを体験できるテーマパーク「メッツァ」の最寄り駅であり、自然あふれる飯能エリアの玄関口にふさわしい駅へとリニューアルしました。フィンランド大使館と共催で実施したデザインコンペの最優秀デザインに基づき工事を実施。2019年3月、飯能駅は「本物のフィンランドデザイン」に生まれ変わりました。

3・4番ホーム

改札外コンコース

■ 西武秩父駅

秩父エリアの観光の玄関口である西武秩父駅のリニューアル工事が2017年3月に完了しました。

駅舎外装は、「西武秩父駅前温泉 祭の湯」と一体感を持たせたデザインとしたほか、コンコース、特急改札口および特急ホーム、跨線橋などの美装化を実施しました。装飾には提灯や杉材といった地元秩父ならではの素材を採用し、駅舎を通じて秩父の魅力を発信しています。また、待合室を改札外にも新たに設置するなど、お客さまの利便性向上を図っています。

駅舎外観

改札口

改札内コンコース

■ 所沢駅

線路上空に地上3階、東口には地上5階建ての複合施設「グランエミオ所沢」を開発し、多様なテナントを集積した店舗フロアなどからなる次世代型駅ビルを目指しました。駅から商業施設へ直接出入りできる改札や、商業施設・駅を利用されるお客さまの駐車場・駐輪場を設置、さらに災害時の防災機能などを整備しました。東口の敷地を中心としたエリアで開発するI期計画は2018年3月に、南改札・南自由通路を含むII期計画は2020年9月に完了しました。

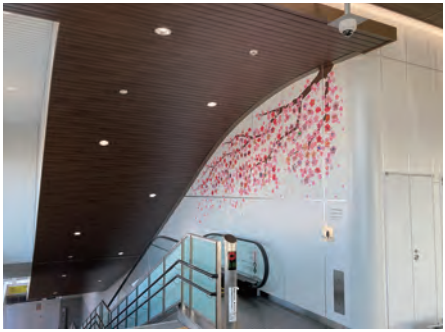
東口外観

改札前吹き抜け（セントラルプラザ）

■ 多磨駅

2020年度、橋上駅舎化と自由通路を供用開始し、2021年度に事業が完了しました。本リニューアルの実施により、新たに東口を新設しました。これにより、構内踏切を廃止し、ホームを拡幅することで、混雑緩和と安全性が向上しました。また、エレベーターやエスカレーターなどのバリアフリー施設の整備により、利便性が向上しました。

東口外観



桜壁面

桜天井

駅舎改良とバリアフリー推進

すべてのお客さまに安全・安心かつ快適にご利用いただくためにバリアフリー設備を整備しています。

バリアフリー設備の整備費に充当

鉄道駅バリアフリー料金制度

当社では、ホームドアをはじめとしたバリアフリー設備の整備を促進するため、国土交通省により創設された「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用します。収受した料金は、すべてバリアフリー設備の整備費に充当します。詳細はWebサイトで公表しています。

https://www.seiburailway.jp/safety/barrierfreechargeplan/

駅構内のバリアフリー

ホーム下への転落を防止

ホームドア

ホーム上からの転落や車両との接触を防止するため、ホームドアを設置しています。現在、池袋（2～6番ホーム）、練馬、西武新宿、高田馬場、所沢、国分寺の計6駅に設置済です。2030年度までに23駅62番線に整備する予定です。

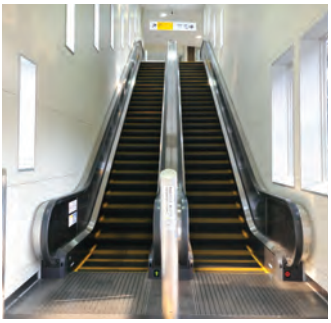
ホームドア（所沢駅）

さらに快適な駅を目指して

エレベーター・エスカレーター・スロープ

エレベーターを69駅、エスカレーターを55駅、スロープを36駅に設置しています。

エレベーター（武蔵砂川駅）



エスカレーター（狭山市駅）

スロープ（本川越駅）

多くの機能を備えたトイレを設置

バリアフリートイレ

車いすをご利用の方、オストメイトの方、小さなお子さまをお連れの方など、多様なお客さまにとって使いやすいトイレです。手すり、オストメイトのパウチの洗浄機能、おむつ交換シートなどの設備もあり、81駅に設置しています。

狭山市駅

安心して駅・電車をご利用いただくために

点字誘導ブロック・点字案内設備

目の不自由なお客さまを誘導し、転落を防止するため全駅に点字誘導ブロックを設置しています。そのほか、バリアフリー対応券売機、点字運賃表、点字手すりプレート、触知案内板を一部の駅を除いて設置しています。

点字誘導ブロック

点字運賃表

車いすやベビーカーでも安心

ワイド型自動改札機

自動改札機を80駅506台設置しています。なお、車いすやベビーカーをご利用のお客さま、大きな荷物をお持ちのお客さまにも便利な、ワイド型自動改札機を80駅すべてに設置しています。

高麗駅

駅のご案内業務におけるバリアフリー

簡易筆談器

聴覚や言語が不自由なお客さまと駅係員のコミュニケーションを円滑にするために簡易筆談器を備えています。文字のほかにも駅周辺の地理などを実際に図に示しながら分かりやすくご案内できます。文字はボタンひとつで消去できるため、個人情報が保護されるだけでなく、紙やインクも使わず環境にも配慮しています。

※小竹向原・武蔵横手・東吾野・西吾野・正丸・芦ヶ久保駅を除く

駅舎改良とバリアフリー推進

すべてのお客さまに安全・安心かつ快適にご利用いただくためにバリアフリー設備を整備しています。

電車内のバリアフリー

やさしさと思いやりの空間

車いすスペース

2両編成、特急車両、8500系車両(レオライナー)を除き、最低2ヵ所以上の車いす用スペースを設置しています。

固定用ロープ付車いすスペース

譲り合いのコミュニケーションスペース

優先席

お年寄りやおからだの不自由なお客さま、妊娠されているお客さまなどに優先的に座っていただくための座席です。特急電車・座席指定列車を除く全車両に設置しています。

電車の位置のお知らせ

点字案内・文字表示

目の不自由なお客さまに安心して電車をご利用いただけるよう、各車両(一部を除く7車種)の内側ドアに乗車位置をお知らせする点字案内を設置しています。これに合わせ文字表示を各車両(一部の車両と既設の車両を除く)の車内外の側面に設置しています。

点字案内

文字表示

文字表示

新しい車両バリアフリーへの取り組み

パートナーゾーン

40000系車両では、パートナーゾーンを設置。車いす、ベビーカーをご利用のお客さまや大きな荷物をお持ちのお客さまも安心して快適に過ごせる、新たな「車両バリアフリー」の形を提案しています。

設備投資

安全対策、サービス向上のため、設備投資を行っています。

過去10年間の設備投資総額は2,044億円

設備投資の実績

鉄道の使命である安全・正確・快適な輸送をモットーに、積極的に設備投資を実施してきました。過去10年間の設備投資総額は2,044億円です。

■ 鉄道事業設備投資額（実績）　（単位:億円）

年度	自社工事
2013年度	155
2014年度	167
2015年度	175
2016年度	197
2017年度	215
2018年度	231
2019年度	300
2020年度	194
2021年度	196
2022年度	214

総額251億円の設備投資を計画

2023年度の主な設備投資計画

安全・快適な設備の追求

■ バリアフリー

◎ホームドア整備
◎列車運行情報提供システム整備
◎段差解消・内方線付点状ブロック整備
◎エレベーター・エスカレーター更新

■ 踏切

◎高規格な踏切支障検知装置の新設・更新
◎特殊信号発光機のATS連動化
◎踏切異常検知システムの新設

■ 車両

◎車内防犯カメラの整備推進
◎ドライブレコーダーの全編成導入

環境対策

◎40000系車両増備（4編成40両）
◎省エネルギー性能の高い走行機器への更新
◎LED照明の導入
◎サステナ車両※導入

車両新造や既存車両の機器更新に加え、省エネルギー化を加速推進すべく、環境負荷の少ない「サステナ車両」の導入を予定しており、現在準備を進めています。

※VVVFインバータ制御車両等の環境負荷の少ない他社からの譲受車両を指す（当社独自呼称）

駅・まちづくりの推進

◎池袋駅・豊島園駅のリニューアル
◎西武新宿駅 新たな地下通路整備の計画
◎中井～野方駅間連続立体交差事業（地下化）
◎東村山駅付近連続立体交差事業（高架化）
◎井荻～西武柳沢駅間および野方～井荻駅間、早期事業化に向けた準備

技術革新への基盤づくり

◎無線式列車制御（CBTC）システム実証試験
◎新運行管理システムの導入
◎転てつ器監視装置の導入

職場環境の改善・整備

従業員が働きやすい・働きがいのある環境を整え、将来を担う人財を確保する観点から、職場環境の整備を行います。現業施設の建て替え、宿泊施設の個室化、駅の従業員用休憩室のリニューアル等により、従業員のプライバシー確保や労務環境の改善を図ります。

ニーズに合わせたダイヤ

お客さまのニーズに合わせた利便性向上のために。

都心へ横浜へ長瀞へ、さらに広がる直通運転

ネットワークの拡大

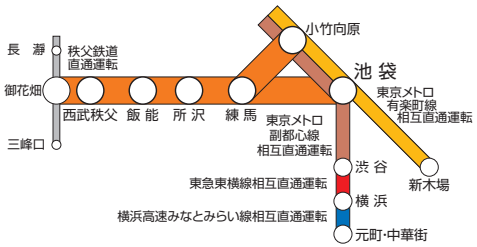
乗り継ぎをなくして利便性を向上させるため、他社線との相互直通運転・直通運転、自社線内の直通運転を行っています。

■ 他社線との相互直通運転

池袋線飯能駅と東京メトロ有楽町線新木場駅間および東京メトロ副都心線・東急東横線を経由し、横浜高速みなとみらい線元町・中華街駅間で相互直通運転を行っています。東京メトロ副都心線方面との直通電車は各社最速（当社線内は快速急行、東京メトロ線内は急行、東急・みなとみらい線内は特急）の種別でつなぎ、分かりやすいご案内を提供するため愛称を「Fライナー」として運転しています。

■ 他社線との直通運転

土休日には、池袋線飯能駅と秩父鉄道長瀞駅・三峰口駅間で直通運転を行っています。



■ 自社線内の直通運転

自社線内においても、線区をまたいだ直通電車を運転しています。また、接続駅での乗り継ぎに配慮したダイヤ編成を行い、お客さまの利便性向上を図っています。

よりスピーディーに、より快適に

速達性・利便性の向上

■ 特急「ちちぶ」・「むさし」・「小江戸」号の運転

特急電車は、1969年10月の西武秩父線開通とともに池袋～西武秩父駅間で運行を開始しました。奥武蔵・秩父・川越への観光特急として、また都心への通勤特急として親しまれています。現在、池袋線で平日59本、土休日59本、新宿線では平日57本、土休日50本を運行しており、また池袋線では2019年3月から新型特急車両Laviewの運行を開始しました。

■ S-TRAINの運転

2017年3月より運行を開始しました。平日は都心への通勤に、土休日は秩父・横浜方面への観光にご利用いただいております。現在、平日は上り所沢～豊洲駅間、下り豊洲～小手指駅間で7本、土休日は元町・中華街～西武秩父、飯能、所沢駅間で計5本を運行しています。

■ 拝島ライナーの運転

2018年3月より運行を開始しました。都心への通勤やおでかけにご利用いただいております。西武新宿～拝島駅間で運行しており、平日は8本、土休日は6本を運行しています。

■ 各種優等電車の運転

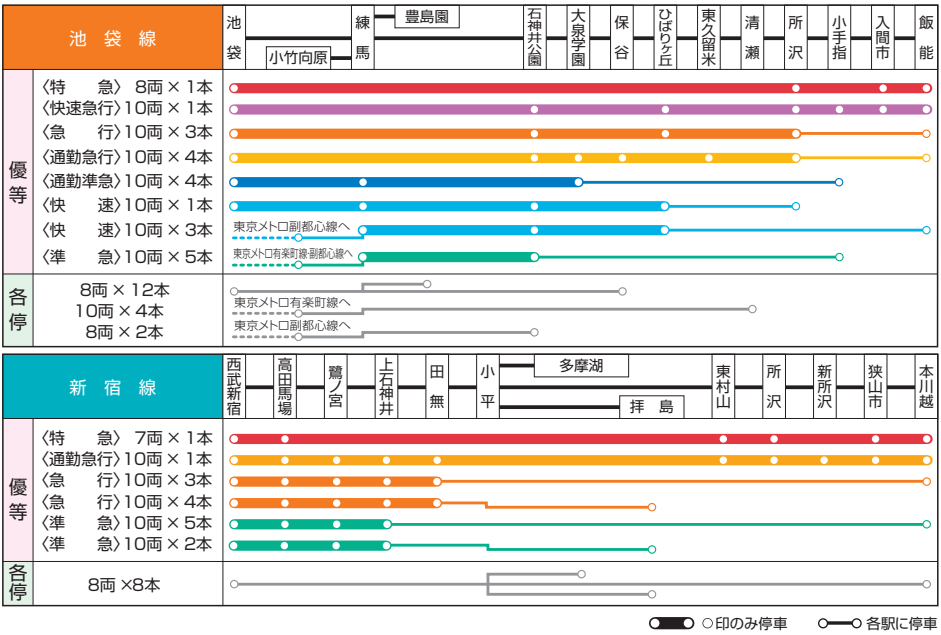
中・長距離をご利用のお客さまのために、快速急行・急行・快速・準急など一部の駅を通過する優等電車を設定しています。また、優等電車と各駅停車の乗り継ぎをスムーズにするなど、通過駅をご利用のお客さまの利便性向上にも努めています。

最混雑時間帯に最大限の輸送力を

朝ラッシュ時の輸送

1日のお客さまの約22%が集中することから、輸送力を最大限に発揮できるダイヤ編成を行っています。

■ 朝のラッシュ1時間の運転形態



沿線のイベントに合わせ臨時電車を増発

野球開催時およびイベント輸送

■ 野球

埼玉西武ライオンズの本拠地であるベルーナドームでのプロ野球公式戦開催日には輸送力を増強し、試合開始時刻に合わせ池袋、本川越、新木場、元町・中華街駅から西武球場前駅への直通電車を増発しています。

試合終了時には、急行や快速の池袋行き臨時電車を集中的に運行しています。

また、池袋～西武球場前駅間で臨時特急「ドーム」号を上り下りともに1本ずつ運行しています。

■ 沿線のイベント

航空自衛隊入間基地の入間航空祭やユネスコ無形文化遺産に登録されている秩父夜祭、ベルーナドームでのコンサート開催に合わせ臨時ダイヤを編成し、輸送力を増強しています。

横瀬、西武秩父駅が最寄りの羊山公園「芝桜」や高麗駅が最寄りの巾着田（きんちゃくだ）「曼珠沙華（まんじゅしゃげ）」の見頃に合わせ臨時電車や臨時特急電車を運行しています。

秩父夜祭

サービスに関する設備

便利で利用しやすい、サービスの充実に努めています。

分かりやすいインフォメーション・サービス

案内設備

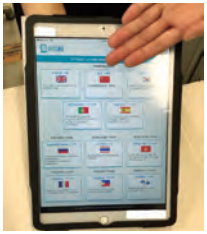
■ お客さまご案内用オープンカウンター

50駅52改札口に設置しています。自動改札と区分けすることで、ゆとりあるご案内が行えます。

野方駅

■ タブレット端末導入

お客さまによりきめ細やかなサービスを提供するため、駅係員にタブレット端末を貸与しています。係員がインターネットや駅周辺の地図、翻訳などのアプリケーションを自由自在に操作することにより、スピーディーかつ正確で分かりやすいご案内を行うことが可能となりました。



■ 駅ナンバリング

当社線に初めて足を運ぶお客さまなど、どなたにも分かりやすくご利用いただけるよう、全駅の駅名標や路線図などに駅ナンバリングを導入しています。

■ 列車案内表示器

列車情報を総合的に提供し、ご案内の充実を図るため、78駅に設置しています。行先・種別・発車時刻はもちろん、次の電車の位置を示す「接近案内」なども表示します。また、液晶画面のLCD式列車案内表示器を池袋、所沢駅など21駅に導入し、より明確な文字で情報をお伝えしています。

新所沢駅

所沢駅

■ 列車運行情報提供システム

当社線および他社線で運転見合わせなどの輸送障害が発生した際に、文字情報と路線図にて運転見合わせ区間や振替輸送経路などをディスプレイに表示するシステムです。日本語のほかに英語・中国語・韓国語の計4カ国語で情報を発信します。ターミナル駅、他社線との乗換駅を中心に導入しています。

■ 遠隔放送装置

事故などで電車の運行が乱れた際、当社線の運転状況を一元管理している「情報司令」から、各駅のホームなどに情報を一括放送できる装置です。駅係員を介さず、情報司令から直接お客さまに事故情報や運転状況などを正確・迅速にご案内できます。小竹向原駅と多摩川線を除く85駅に設置しています。

■ 総合案内板

駅名・路線案内・停車駅案内が一体の総合案内板を68駅のホームに設置しています。また、本川越駅の駅名看板などには副駅名「時の鐘と蔵のまち」を、案内表示として多磨駅には「東京外大前」、武蔵砂川駅には「国営昭和記念公園砂川口」を表示しています。

萩山駅

クレジットカードでの購入も可能

定期券

6駅に「定期券発売窓口」があるほか、一部駅を除き定期券が購入できる自動券売機を設置しています。なお、ご購入には西武グループの「SEIBU PRINCE CLUBカード セゾン」などの各種クレジットカードをご利用いただけます。

※小竹向原・武蔵横手・東吾野・西吾野・正丸・芦ヶ久保駅を除く。

自動券売機

駅でもスマホ・PCでも購入可能

特急券／指定券

特急ラビュー・レッドアロー号の特急券、S-TRAINおよび拝島ライナーの指定券を西武線内48駅で取り扱っています。

■ 特急券／指定券券売機での発売

次に発車する電車の特急券／指定券を発売する「単機能型券売機」、当日に発車する電車の特急券／指定券を発売する「多機能型券売機」を、ホーム・コンコースなどの発売場所に応じて配置しています。

特急券／指定券券売機

■ 駅窓口での発売

ご乗車日の1ヵ月前からの前売り、1ヵ月+7日前から団体予約などを行います。

駅を快適・安心に

駅設備

■ 待合室

静かで快適な空間で電車をお待ちいただくため、44駅に設置しています。

所沢駅

■ 授乳室

池袋駅の駅事務室内、所沢駅南改札内の待合スペース「とことこひろば」に設置しています。ご家族でのおでかけも安心です。

万一のために「AED（自動体外式除細動器）」を設置

AED

心停止状態となった際、心臓に電気ショック（電気的除細動）を与え、救命を図る医療機器です。音声により、心臓マッサージと人工呼吸をガイドします。全駅に設置しています。

サービス向上への取り組み

お客さまにさらに便利に、安心してご利用いただくために。

全国相互利用サービス

PASMO

「PASMO」および「モバイルPASMO」の利用サービスを導入しています。首都圏をはじめとする、全国の鉄道・バス路線などに加え、電子マネーとしてお買い物にもご利用いただけます。

※PASMOは(株)パスモの登録商標です。

より便利に使えるPASMO定期券

Oneだぶる♪・だぶるーと

多くのお客さまからのご意見・ご要望にお応えし、西武新宿駅と高田馬場駅乗り換えでJR山手線新宿方面のどちらもご利用いただけるJR線との連絡定期券「Oneだぶる♪」と、小竹向原駅経由と西武線池袋駅乗り換えのどちらもご利用いただける東京メトロ線・東急線との連絡定期券「だぶるーと」を発売しています。どちらも2つのルートが選べる便利なPASMOの通勤定期券です。

Oneだぶる♪
だぶるーと

外国人のお客さまにも分かりやすく

観光・暮らしのサポート

■ 駅施設のサイン

駅設備サインや誘導サインなどは、ピクトグラムや日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語の4ヵ国語で表記しています。車内では、英語による行先・乗換放送が行える機器を導入しています。

4ヵ国語の駅サイン

安全・安心な地域づくりのために

こども110番の駅

地域の一員でもある鉄道事業者では、より安全・安心な地域づくりに貢献するため「こども110番の駅」の取り組みを進めています。

当社でも2006年4月から取り組んでおり、お子さまが助けを求めてきたときに保護し、110番通報するなどの対応を取っています。地域の安全・安心を担う一員として、お子さまにとって楽しく、安心な駅を目指します。

©2023 Gullane(Thomas)Limited

瞬時に各所で情報を共有し、返還率アップ

お忘れ物取扱システム

お忘れ物の返還率向上を目指し、社内LANを利用した「お忘れ物取扱システム」を導入しています。情報は各駅または「西武鉄道お客さまセンター」で検索できます。

Webサイト上で「遅延証明書」を発行

「遅延証明書」のWeb化

遅延証明書は、事故などで電車が遅れた際に各駅で発行していましたが、振替輸送のご利用により入手が困難だったり、混雑でお待ちいただくことがありました。こうしたご不便を解消するため、Webサイト上での発行を実施しています。

“おもてなしの心”を

ユニバーサルマナー検定（鉄道）

変化する社会の中、今まで以上にお客さまの安全・安心を守ることを目指し、当社は株式会社ミライロと「ユニバーサルマナー検定（鉄道）」を共同開発しました。この検定は、障がいのある方やご高齢の方のお困りごとや適切なサポート方法などを、鉄道利用のシーンを想定して学ぶ実践的なプログラムです。2023年3月から駅係員を中心に受講を開始しています。

バッジデザイン

専門能力の向上を目指し、高レベルで競われる競技会

乗務競技会

お客さまへのサービス向上、係員の技術向上を目的に行っています。運転士は定時運転による安全な運転技術と乗り心地の向上を競い、車掌は案内放送と接客技術を競う「乗務競技会」があります。

ご高齢者や障がいをお持ちの方々をサポート

駅ボランティア

所沢市と協力し、2004年度より「駅ボランティア」を開始。所沢市内の駅を利用する中学生以上の方、秋草学園短期大学の皆さまなどが活動しています。駅をご利用のご高齢者や障がいをお持ちのお客さまのために、きっぷの購入や手荷物の運搬、通路や階段の移動などをサポートしています。

航空公園駅で実施された駅ボランティア体験会

妊産婦の方々へやさしさを

マタニティマークの配布

鉄道利用の際「妊娠初期の場合は外見からは分かりにくく、妊婦と気付いてもらえない」「勘違いに対する恐れから、妊婦の方へ席を譲れない」。こうした声にお応えし、全駅で妊婦の方々へマタニティマーク（ボールチェーンタイプ）を配布しています。

サービス向上への取り組み

さまざまなふれあいを通じ、お客さま・地域とともに歩みます。

広報誌、Webサイトなどを通じて 情報発信

■ 広報誌

「西武鉄道かわら版」

当社の安全・安心・快適のための取り組みや沿線のトピック、グループ情報などを紹介しています。全駅で配布しているほか、Webサイトでも公開しています。

■ 西武ニュース remo(レモ)

毎月1日に定期刊行している西武線沿線のおでかけ情報誌です。西武線沿線でできる「あんなコト」「こんなコト」を冊子、Webサイト、SNSで発信しています。

■ その他のパンフレット

◎ウォーキング&ハイキングなど

■ 西武鉄道Webサイト

<https://www.seiburailway.jp>

運行情報、乗換案内、企業情報、観光情報などを発信しており、最新の情報は、スライド式のメインバナーで紹介しています。

◎ 花めぐり

<https://www.seiburailway.jp/sightseeing/hanameguri/>

沿線に咲く四季折々の花々を花スポットとともに紹介しています。

◎ ぐるっとプラス

<https://grutto-plus.com>

"遊んで""食べて""自然に触れる"西武線沿線地域の魅力を共有・発信する情報サイトです。さまざまなスポットを8つのジャンル・エリアに分類。おでかけがもっと楽しくなる情報を随時公開・発信しています。

■ 駅員さんキャラクター

硬くなりがちなお客さまへの告知などを親しみやすくするために登場しました。さまざまなポスターやパンフレットなどで見られるほか、着ぐるみも製作し、各種イベントで活躍しています。

■ テレビCM

2013年3月より、秩父地域などへの旅客誘致や、沿線ブランドイメージの向上を目指してテレビCMを放映しています。

さまざまなSNSで情報発信

西武鉄道公式アカウント

当社のニュースリリースやおすすめ情報、西武線沿線や電車の写真、YouTubeの更新情報等、さまざまなSNSを通じて定期的に投稿しています。

■ YouTube

西武鉄道公式チャンネル
ーSEIBU RAILWAY Official Channelー

鉄道に関わる業務を担っている社員の1日密着動画や各種イベントの紹介動画等、文章や写真では伝えきれない西武鉄道および西武線沿線の魅力を動画で定期的に配信しています。

■ X（旧 Twitter）

西武鉄道運行情報【公式】@seiburailway

当社線の電車の運行に15分以上の遅れが発生、または見込まれる場合に「西武鉄道Webサイト」で発信している運行情報をお客さまのスマートフォンなどの端末にお届けしています。

西武鉄道【公式】@seibu_info

■ Instagram

西武鉄道【公式】@seibu_railway_information
<https://www.instagram.com/seibu_railway_information/>

■ Facebook

西武鉄道
<https://www.facebook.com/seiburailway/>

公式アカウント一覧

https://www.seiburailway.jp/officialsns/

親子で楽しく電車が学べるWebサイト

西武鉄道キッズ

<https://www.seiburailway.jp/railways/kids/>

魅力的なキャラクターたちとクイズやゲームを楽しみながら、電車のマナーや沿線の魅力などを学べます。電車のお仕事を体験できるコンテンツやおでかけ情報などもあり、親子で楽しめるWebサイトです。

沿線価値の創造

地域の活性化のために、さまざまな連携を行っています。

地域団体との協力関係

地域の活性化

秩父地域活性化の一環として、秩父市・羊山公園「芝桜の丘」への旅客誘致を地域団体とともに展開しているほか、芝桜の見頃となるゴールデンウィークを中心に臨時電車・臨時特急も増発しています。曼珠沙華の群生地である日高市・高麗の里「巾着田」についても同様に協力しています。また、横瀬町で開催する「あしがくぼの氷柱」に合わせ、特急電車の臨時停車や氷柱のライトアップに合わせた一部電車の徐行運転も行っています。

秩父市・羊山公園「芝桜の丘」

日高市・高麗の里「巾着田」の曼珠沙華

横瀬町「あしがくぼの氷柱」

沿線地域観光の新しい提案

西武 旅するレストラン「52席の至福」

沿線各地域の活性化と新しい旅行スタイルの提供を目的として、2016年4月にデビュー。4000系車両をリメークし、外観は荒川の水の流れを表現して、車内の一部には伝統工芸品や地産木材である「西川材」を使用しています。また、当社初となるレストラン車両を設け、すべての座席で食事が楽しめます。

西武 旅するレストラン「52席の至福」

3号車（厨房車両オープンキッチンスペース）

4号車（ダイニング）

地域の活性化を目的に、自治体と連携

地域との連携

■ 西武線沿線サミット協定

2012年に池袋線・西武秩父線の起点・終点をつなぐ4者（豊島区・飯能市・秩父市・当社）にて発足。2018年より新たに2者（所沢市・横瀬町）を、2023年にはさらに1者（清瀬市）を加え、観光・文化・教育・産業・環境などの幅広い分野で連携し、イベントなどを実施しながら各自治体の魅力を発信しています。

協定締結式の様子（2018年4月）

■ 江古田キャンバスプロジェクト

2019年度より、江古田駅周辺に所在する武蔵大学、日本大学芸術学部、武蔵野音楽大学とともに、江古田のまちを一つのキャンバスに見立て、音楽やアート、カルチャーなど自由な発想・表現で彩り、人と人、人とまちをつないでいくプロジェクトを実施しています。街の活性化とともに、学生の学びを応援することにより地域連携を深めています。

■ はんのーと

2021年度より、地元まちづくり会社の（株）Akinaiや飯能市とともに、飯能エリアの魅力を発信し、飯能に繰り返し訪れる人（＝交流人口や関係人口）を増やすことで、飯能エリアへの移住を促進することを目的としたプロジェクトを実施しています。Webサイトでは地域情報や移住をテーマにした情報をお届けするほか、地域の魅力を発信するイベントも実施するなど、飯能エリアでの暮らしが想像できるコンテンツを多数用意しています。

西武線沿線に彩りある暮らしをお届け

SEIBU Green Marchéを開催

2017年より練馬区後援のもと、石神井公園駅中央口改札前にて「SEIBU Green Marché」を開催しています。このマルシェは、練馬区を中心とした西武線沿線産の食材や名産品のおいしさ、すばらしさを生産者さまから直接伝え、味わっていただくことで、西武線沿線の魅力を再発見していただき、その街や駅での暮らしをもっと好きになっていただきたいという想いを込めています。

また、2022年より、厳選された西武線沿線のおいしい食材などをいつでもご自宅でお楽しみいただけるECサイト「SEIBU Green Marché Online」を開設しています。

■ Hanako w/ Seibu

ライフスタイル誌「Hanako」とタイアップし、魅力的なお店や暮らす人をきっかけにライフスタイルやコミュニティの輪を知ることで、西武線沿線の街で暮らすイメージを思い描くことができるサイトとなっています。

■ すもうよ! 西武線沿線

2019年度より、SUUMOとタイアップし、西武線沿線の住まい情報を発信することを目的としたWebサイトを制作しています。街の情報・魅力をお届けするとともに、より西武線沿線で暮らすイメージを深めていただけるコンテンツをご用意しています。

沿線価値の創造

各種イベント

当社へより親しみを持っていただくために

さまざまなイベント

当社では、グループスローガン「でかける人を、ほほえむ人へ。」を実現するために、さまざまなイベントを継続して開催しています。

■ 西武・電車フェスタ in 武蔵丘車両検修場

当社最大の車両検修施設を特別に一般公開して、車両検修作業の見学や実演・体験イベントなどを行い、毎年多くのお客さまにご来場いただいています。なお、2023年はコロナ禍前の賑わいに戻すことを目標に、各イベントを実施しました。

■ ウォーキング&ハイキング

当社が行っているウォーキングイベントです。街歩きからハイキングまで幅広く、季節に応じて楽しめるコースを設定しています。

■ WEST CODE第五弾　西武今昔謎物語 ～わがまま姫君の無理難題～

西武線沿線の駅および駅周辺を実際に散策しながら、冊子に記載されている謎を解き明かしていく、分散周遊型のイベント「WEST CODE第五弾　西武今昔謎物語～わがまま姫君の無理難題～」を実施しました。

■ 駅の推し獅子

西武線91駅（小竹向原駅を除く西武線全駅）が、それぞれ応援する“推し”の埼玉西武ライオンズの選手（推し獅子）を設定し、シーズンを通し装飾や演出などによって応援していくプロジェクトをプロ野球2023シーズン開幕日より実施しています。

■ その他のイベント

◎アニメーションとコラボレーションしたスタンプラリーや鉄道ファンや親子を対象としたツアーなど

沿線価値の創造

おでかけをサポートするサービス

人気の観光地へのおでかけに便利でおトク

おトクなきっぷ

当社では、秩父方面、川越方面、横浜方面、都心方面などへのおでかけに、便利でおトクなきっぷを発売しています。

○秩父フリーきっぷ
○秩父フリーきっぷ(デジタル)
○秩父漫遊きっぷ
○小江戸・川越フリークーポン
○川越アクセスきっぷ
○西武横浜ベイサイドきっぷ
○西武横濱中華街グルメきっぷ
○西武東急線トライアングルパス
○西武東京メトロパス
○箱根フリーパス
○江の島・鎌倉フリーパス
○西武線発　みさきまぐろきっぷ
○西武鉄道サイクルトレインきっぷ(デジタル)
○ムーミンバレーパークおでかけパス(デジタル)
○SEIBU KAWAGOE PASS(西武川越パス)
○SEIBU 1Day Pass・2Day Pass
○MOOMINVALLEY PARK Ticket & Travel Pass

各種おトクなきっぷのパンフレット

外国人のお客さまにも分かりやすく

観光・暮らしのサポート

■ 西武ツーリストインフォメーションセンターの開設

池袋駅構内において、海外からのお客さま向けに、より安心・快適に当社線沿線を観光いただくため、西武ツーリストインフォメーションセンターを開設。西武線沿線の魅力を訪日外国人のお客さまにご案内します。

■ 訪日外国人向けSNS・居住外国人向けSNS

沿線の行事、旬の観光・生活情報およびグループ施設の案内などを発信しています。

■ 外国人定住

外国人の方が沿線でライフサイクルを構築し、住み続けていただくための施策を実施しています。観光目線とは異なり、沿線のお店や人にフォーカスを当てた情報を発信しています。

■ 翻訳対応透明ディスプレイ実証実験

急速に需要が回復する訪日外国人の対応に備え、アプリ等の操作を必要とせず、相手の表情を見ながらの円滑な多言語コミュニケーションが可能となる本ディスプレイの実証実験を、訪日外国人が多く利用する西武新宿駅にて実施しています。また、本ディスプレイにより、外国語話者のスタッフを配置せずとも円滑な多言語コミュニケーションが可能となります。

西武新宿駅

沿線価値の創造

駅ナカ・沿線内外のライフサポート。

コンビニ定番商品など、豊富な品揃え

駅ナカ・コンビニ「トモニー」

「トモニー」は、株式会社ファミリーマートと当社が共同展開している当社線の駅ナカ・コンビニです。立地条件に合わせて「ウォークイン、ステップイン、カウンター、オートマチック・スーパー・デリス（自販機コンビニ）」型の4つのタイプがあり、おむすび・サンドイッチなどのコンビニ定番商品に加え、公共料金の支払いなどサービス機能も充実させ、41店舗（無人店舗6店舗を含む）を展開しています。

2021年8月には、無人決済システムを導入した実用化店舗として「トモニー中井駅店」をリニューアルオープンしました。同店舗は、当該システムを導入したファミリーマートフランチャイズ店舗の第1号店となります。

※店舗によりサービスが一部異なります。※2023年8月1日現在　中井駅店

多様化する働き方に応える

新しい働き方の提供

■ ワークスポット

西武鉄道の駅構内では、隙間時間にプライベートな環境を提供するボックス型のオフィス「テレキューブ」を4駅に、「ステーションブース」を8駅にそれぞれ設置しています。

お客さまの多様な働き方のニーズに応えるため、今後もワークスポットを拡充していきます。

所沢駅中央改札内「テレキューブ」

国分寺駅改札内「ステーションブース」

駅構内の利便性向上のために

駅ナカ・駅チカ商業施設「Emio（エミオ）」

「Emio」は、駅をご利用になるお客さまや地域の方々から親しみを持っていただけるよう「あなたの暮らしにほほえみを」という思いを込めて、地域に合わせたテーマを持って展開している駅ナカ・駅チカ商業施設です。エミオ練馬をはじめエミオ狭山市、エミオ石神井公園など16施設あり、駅と沿線の価値向上に努めています。

※西武リアルティソリューションズの運営　エミオ石神井公園

お客さまに好評の西武鉄道グッズ

西武鉄道グッズ

「トモニー」や「西武鉄道オンラインショップ」では、西武鉄道グッズを取り扱っています。当社の電車がデザインされた日用品や雑貨など、おとなからお子さままで幅広い世代のお客さまより好評をいただいています。

実車の「端材」を使用した商品

プラレール「西武鉄道001系 Laview」

© TOMY　「プラレール」は株式会社タカラトミーの登録商標です。

電子マネー決済で簡単・便利・スピーディーに

交通系電子マネー決済

PASMOなどにチャージされた交通系電子マネーは、鉄道やバス以外に、駅ナカ、駅チカ、街ナカの店舗で幅広くご利用いただけます。小銭不要なキャッシュレスは便利で安全。他の決済事業者と協力してマルチマネー（クレジット・電子マネー・QRコード等）端末によるキャッシュレス決済促進を進めており、沿線における利便性向上に努めています。

※PASMOは（株）パスモの登録商標です。
※QRコードは（株）デンソーの登録商標です。

沿線価値の創造

多彩な広告媒体の提供。

接触率が高く、大きな費用対効果

駅構内広告

駅の空間特性を生かした広告で「駅ばり」「サインボード(看板)」「インパクトアド(特殊広告)」「デジタルサイネージ(映像広告)」などがあり、多様でダイナミックな表現が可能です。乗降の多い駅への集中的な掲出や、駅全体のジャック広告など多種多様なPRができます。

駅ばり(池袋ビッグボード)

デジタルサイネージ(池袋駅地下改札外)

鉄道施設を撮影場所として提供

ロケーションサービス

映画やTVドラマなどの撮影ポイントとして駅や電車内をご利用いただき、有料で撮影に協力する事業です。企業名や施設名が作品で紹介されることにより、企業PRや沿線のイメージアップにつながっています。

直接購買に結びつきやすいメディア

車両広告

「中づり」や「まど上」「ステッカー」「Smileビジョン(車内映像媒体)」などがあります。なお、一部には「中づり」部をすべて、映像放映(Smileビジョン)できる車両があるほか、「車体広告」「広告貸切電車」などのインパクトある展開も可能です。

Smileビジョン

車体広告

楽しく創造して注目率アップ

特殊広告

BIGBOX高田馬場壁面の屋外広告などスペースの有効活用、話題になるような魅力的でインパクトのある広告掲出など、自由に発想した広告を実現できるよう努めています。

屋外広告(BIGBOX高田馬場)

地球環境への配慮

温暖化対策、騒音対策、省資源、自然環境保全にも配慮しています。

地球の未来のために私たちができること

地球温暖化対策

駅でのエコ活動

■ 駅コンコースなどへのLED照明の導入

CO_2の削減と省エネルギーを目指して、駅リニューアルなどの設備改修時に、コンコース、階段、トイレ、ホーム待合室などの各施設でLED照明化および省エネ照明化を進めています。

所沢駅 西口

■ 駅の緑化

お客さまに潤いと安らぎの空間を提供するとともに、環境保全にも貢献。駅の外壁やコンコース、ホーム待合室、屋上、トイレなど、多様な緑化に取り組んでいます。

◎椎名町・江古田・石神井公園・入間市・西武球場前・高田馬場・野方・久米川・所沢・航空公園・狭山市・武蔵境・多磨駅など

所沢駅

■ テント膜の使用

自然光を取り入れ、明るく広い駅空間を演出するとともに、電気使用量を削減します。

◎池袋・江古田・石神井公園・保谷・ひばりヶ丘・西武新宿・中井・下井草・花小金井・所沢・狭山市・本川越駅

所沢駅

■ 旅客トイレへの雨水利用

トイレ洗浄水への雨水再利用システムを導入しています。

◎石神井公園・狭山市駅

■ 太陽光発電システムの導入

◎東長崎・江古田・石神井公園・武蔵藤沢・野方・下井草・所沢・拝島駅

■ 再生材の使用

駅舎のコンコースや外壁に使用しています。

◎石神井公園・狭山市駅

石神井公園駅

■ **古レールの利用**

コンコース内のりば案内の柱や、街灯の柱に再利用しています。

◎椎名町・東長崎・江古田・中村橋・野方駅

■ **床へのガラスブロックのはめ込み**

所沢・狭山市駅の床面に、ガラスブロックをはめ込み、橋上駅舎のコンコースの明かりをホームへ取り入れています。

■ **自然と調和した駅舎計画**

武蔵大和駅では、駅舎脇の桜の木をできる限り伐採しないよう駅舎の形を設計し、改良工事を行いました。

2011年10月には、桜並木を生かした環境配慮が特に優れていると認められ、鉄道建築協会賞「作品部門」に入賞しました。

武蔵大和駅

車両のエコ活動

■ **LED照明の導入**

2013年度以降の新造車両（30000系、40000系および001系）より、車内にLED照明を導入し、消費電力およびCO_2排出量を削減するとともに、廃棄物を削減しています。既存車も蛍光灯「0」を目標に順次LED化を進めています。

■ **車両の軽量化**

◎6000系（ステンレス製、アルミ製）

◎20000系・30000系・40000系・001系（アルミ製）

40000系

■ **車両へのVVVF（可変電圧可変周波数制御）インバータ装置の採用と高効率化への更新**

2016年度以降に導入した40000系および001系には最新技術のモーターを採用。また、2014年度より6000系車両のインバータ装置の更新を順次実施しており、さらなる省エネルギー化を図っています。

◎6000系・8500系・9000系・10000系（一部）・20000系・30000系・40000系・001系

■ **車両の電力回生ブレーキ（ブレーキにより発電した電力を架線に戻し、ほかの電車が再利用するシステム）の採用**

◎2000系・6000系・8500系・9000系・10000系（一部）・20000系・30000系・40000系・001系

■ **車両のVVVFインバータ装置の主回路素子冷却用冷媒をフロンから環境負荷のない純水へ切り替え**

■ **熱線反射フィルムを導入**

20000系、9000系、6000系、4000系、2000系の一部の車両の窓ガラスに、紫外線の透過や温度上昇を抑制する「熱線反射フィルム」を導入しています。

地球環境への配慮

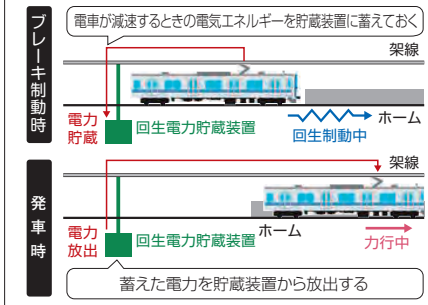
電気のエコ活動

■ 駅や踏切の照明にLEDを導入

■ 回生電力貯蔵装置（電力回生ブレーキにより発電された電力を蓄えて必要なときに供給する装置）の設置

◎田無変電所・吾野変電所・正丸変電所

<回生電力貯蔵装置の概念図>



■ 駅舎補助電源装置の導入

電車がブレーキをかけたときに発生する電力（回生電力）を、駅設備（照明・空調・昇降機）の電源として用いて省エネルギー化を図る設備で、電力を有効活用することで消費電力を削減します。

◎池袋ほか12駅

■ 100%自社グループの太陽光発電でレオライナーを運行

東京電力エナジーパートナー株式会社の協力により、山口線（レオライナー）で使用する電気使用量のすべてを、グループ運営の「西武武山ソーラーパワーステーション」が発電する環境価値が付いた電力でまかなうことを実現。これにより年間約300トン排出していたCO_2を実質ゼロで運行することが可能になりました。

沿線でのエコ活動

■ 沿線の美化・緑化

◎東久留米～清瀬駅間、新井薬師前～沼袋駅間、高麗駅、横瀬駅などの線路脇などへ植樹

◎武蔵境駅高架橋上の線路間スペースに緑化を実施

いつもの「電車」にそのまま「自転車」で乗車できる

西武多摩川線サイクルトレイン

多摩川線において、平日の一部時間帯および土休日の終日、電車内へ自転車を持ち込み、乗車ができるサイクルトレインを運行しています。サイクルトレインは、お買い物やサイクリングなどにおけるお客さまの行動範囲を広げることで地域交通の利便性拡充に貢献します。また、自動車に比べてCO_2の排出量が少ない電車と自転車を組み合わせてご利用いただくことにより、SDGsの取り組みとして、環境保全にも効果が期待できます。

小さなことの積み重ねから始まります

省資源・廃棄物対策

省資源対策

- 使用済み乗車券類のリサイクル
- 資源ゴミのリサイクル
- 建設現場におけるリサイクル材の使用
- 座席の詰め物へのリサイクル可能なポリエステル素材の使用
- 車両製造時および廃棄時にリサイクル性の高いアルミ構体を採用

廃棄物対策

- PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の適正管理、適正処理
- 建設リサイクル法に則った建設廃材の適切な処理
- 車両部品の非アスベスト化
- 車両の電子機器プリント基板の非鉛化

VOC（揮発性有機化合物）排出量削減対策

- 亜鉛メッキ処理

◎池袋・東長崎・ひばりヶ丘駅など

VOC対策（亜鉛メッキ処理・池袋駅）

連続立体交差化による踏切部の交通渋滞の解消

◎池袋線 桜台～練馬高野台駅間（19踏切廃止済）
◎池袋線 石神井公園駅付近（9踏切廃止済）
◎新宿線 中井～野方駅間（今後7踏切廃止予定）
◎新宿線 東村山駅付近（今後5踏切廃止予定）
◎多摩川線 武蔵境駅付近（3踏切廃止済）

エネルギー情勢にも対応

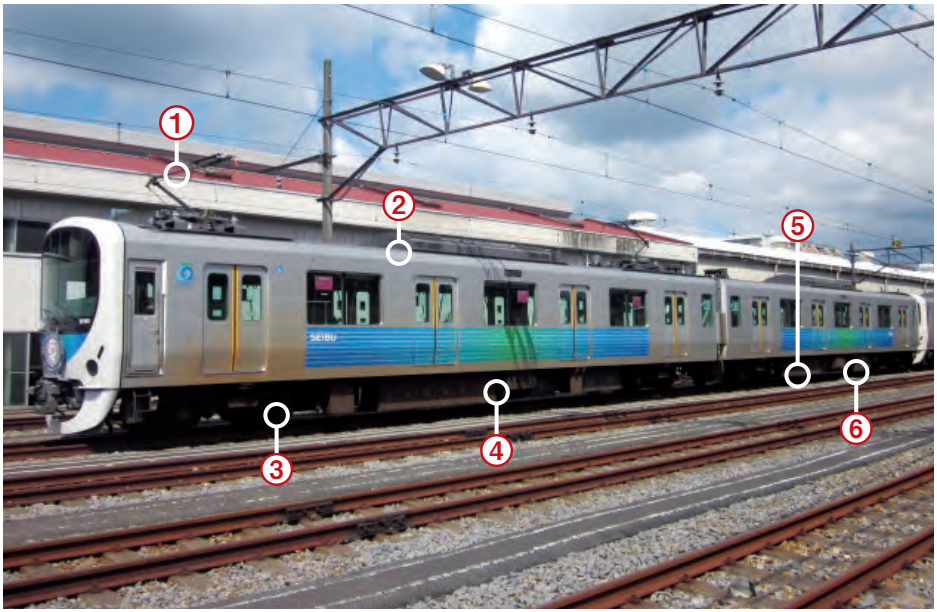
メガソーラー発電設備の設置

2013年4月より事業を開始し、武蔵丘車両検修場の屋根に太陽光パネルを設置しました。2014年1月より発電を開始し、発電した電気は電力事業者に売電しています。エネルギー情勢の変化に対応し、未来の地球環境保全に努めます。

太陽光パネル設置の様子

地球環境への配慮

車両における騒音・振動の低減



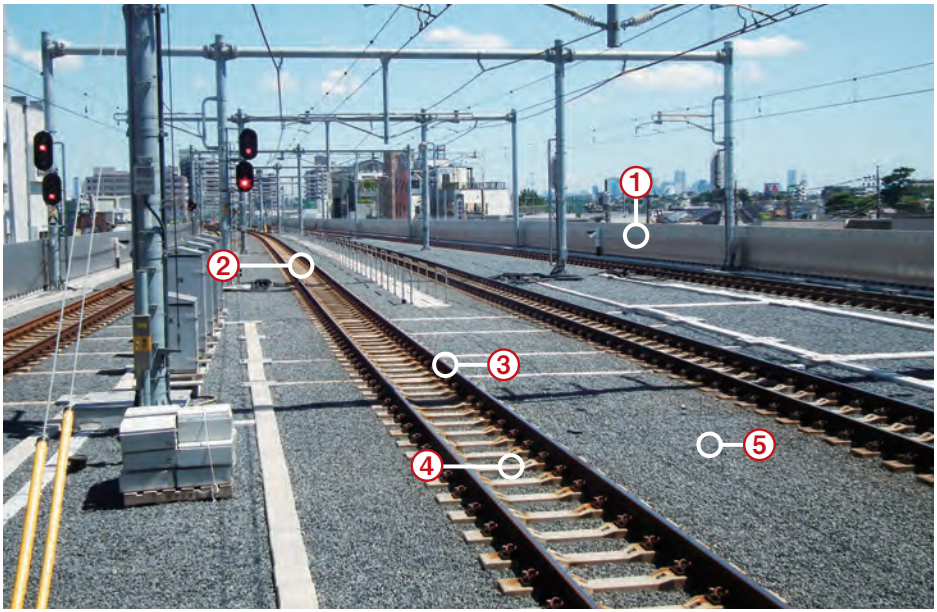
（写真の車両は30000系）

① 走行時の風切り音を低減するため「シングルアームパンタグラフ」を採用
② ステンレス製またはアルミ製による「車両の軽量化」（6000系・20000系・30000系・40000系・001系）
③ カーブ区間における「きしり音」などの騒音を低減するため「防音車輪」を採用
④ 新型交流モーターを駆動制御することで、モーター回転音の低減を図る「VVVFインバータ制御装置」を採用
⑤ 車内の冷暖房や蛍光灯などの電源の発電機を、回転機から静止型インバータに切り替え
⑥ ブレーキ装置やドアの開閉に使用する圧縮空気を作り出す電動空気圧縮機を交流化し、回転音を低減

■ その他

◎電車の警笛にやわらかな音色の「電子ホーン」を採用
◎車輪の摩擦によってできる平面を防止するため、車輪に「滑走防止装置」を設置
◎定期的な「車輪の削正」により、車輪表面の凹凸をなくし、走行時の騒音を低減

［ 軌道における騒音・振動の低減 ］



① 高架区間に、電車通過時の騒音を低減する「防音壁」を整備
② レールを溶接し、レールの継ぎ目個所を減少させることで、列車の騒音・振動を低減、乗り心地の向上が図れる「ロングレール化」を実施
③ 振動の低減を図るために、レールの重量を1mあたり50kgから60kgに交換する「レールの重軌条化」を推進
④ 騒音の低減、乗り心地の向上を図るために「防振マクラギ」を使用
⑤ 高架区間におけるコンクリート道床に、「消音砕石」を散布

■ その他

◎レール削正車により、レール踏面（電車の車輪がレールに接触する部分）を削正
◎継ぎ目の数を減らし、騒音・振動の低減が図れる「弾性分岐器」を導入
◎夜間作業で使用する保線機械に「防音扉」を設置
◎工事における騒音・振動の抑制のために、低騒音・低振動の工法・機械を採用

レール削正車